

平成 30 年度職員採用試験（第 2 回社会人経験者）  
総合土木 専門記述試験（30.10.14）

次の 2 つの課題のうち、いずれか 1 つについて回答しなさい。

＝ 課 題 1 ＝

○ 大規模災害で被災した公共土木施設の復旧について

広島県では、7月3日から8日にかけて、多いところで累積雨量が676mmに到達するなど、県内各地で記録的な豪雨に見舞われ、県下全域で、県民生活や経済活動の基盤となる公共土木施設に、戦後最大級の被害が発生しました。

このため、本県では、県民生活等を早期に日常の状態に回復させるため、発災直後から、被災した公共土木施設について、緊急措置としての応急復旧工事を実施しました。また、現在では本格的な復旧へ向けて、段階的に災害復旧工事を進めているところです。

しかしながら、膨大な箇所の公共土木施設が被災しているため、災害復旧工事については、緊急度に応じて計画的に実施していく必要があります。

そこで、次の3点について、あなたの経験を踏まえて具体的に述べなさい。

- ① 被災した公共土木施設において、応急復旧工事が必要と考えられる箇所・施設とその理由
- ② 本格的な災害復旧工事を計画的に進める上での優先順位の考え方
- ③ 県民の理解と協力を得ながら災害復旧工事を円滑に進めるために必要な取組

＝ 課 題 2 ＝

○ 本県に求められる農地・農業用施設の復旧・復興について

平成30年7月豪雨では、広島県をはじめ西日本の広い範囲で記録的な大雨となり、多くの地点で降水量の値が観測史上第1位となるなど、これまでの観測記録を更新しました。雨量の特徴として、県の南西部では7月6日12時からの24時間で350mm以上を観測し、また降り始めからの累積雨量が676mmに到達するなど、まれにみる大雨により多くの災害が発生しました。

農林水産業全体では約711億円の被害が発生し、そのうち、農地<sup>※</sup>の被害は約8,500箇所、176億円、農業用施設<sup>※</sup>の被害は約7,800箇所、221億円、合計で約16,300箇所、397億円と、自然災害による被害額としては、過去最大となっています。

この豪雨からの復旧・復興に向けて、県では「平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興プラン ～創造的復興による新たな広島県づくり～」を策定しました。

このプランでは、目指す姿を『この災害を起点とした、創造的復興による新たな広島県づくり』として、その実現に向けて4つの柱を掲げており、農地や農業用施設が関係する分野では、

- 「未来に挑戦する産業基盤の創生」
- 「将来に向けた強靱なインフラの創生」

という2つの柱に沿って施策を展開していくこととしています。

そこで、次の2点について、あなたの経験を踏まえて具体的に述べなさい。

- ① 農地や農業用施設における今回の被災の原因と特徴について
- ② 被災地の現状や課題を踏まえて、目指す姿を実現するために、求められる災害復旧工事について

※農地：田，畑，樹園地など

農業用施設：水路，道路，ため池，頭首工，橋梁など